

「チェルノブイリ」は 未来からのメッセージ

「チェルノブイリ」は、過去の出来事なのでしょうか？ いいえ、私達はいまだに、この事故が未来からの大切なメッセージ(警告)だということに気づいていないのです。

私達は、たとえ小さき人々であっても、絶対に、自分達の大切な命を、無責任な権力者や学者の手にゆだねてはいけません。自分や自分の子ども達を尊重するために、闘わなければなりません。

そういう闘いは、ベラルーシでもフランスでも、そして日本でも、必ず広がっていくはずですよ。なぜなら、チェルノブイリ後の世界は、その被害の広がりを見てもわかるように、本当に狭くて小さなものになってしまったからです。私達は、ひとつの小さな船に乗り合わせた仲間です。

闘いを広げるためには、忍耐が必要であり、同時に、勇気が必要です。皆さんが、その勇気を持たれることを、私は願っています。

(スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ)



〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：田中良明

郵便振替：00880-7-108610

TEL/FAX：052-836-1073 (月・水・金 10:00~17:00)

E-mail：chqchubu@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

アレクシエーヴィチさんの西から東から

思い起こせば1年前。運営委員会で、悲願のアレクシエーヴィチさん招聘事業を決定！ 前回来日されたのは真夏で、暑さがこたえ

たご様子だったという情報を『チェルノブイリの祈り』の翻訳者の中川妙子さんから得、気候の良い10月なら来ていただけるのでは、と考えました。地球上のどこにいらっしゃるのかも分からないアレクシエーヴィチさん探しと、名古屋以外の講演会主催団体探しが始まりました。あれから1年、7カ所の開催地との連携は申し分なく、満を持してのお出迎えです。通訳兼コーディネーターは、「救援・中部」キエフ駐在の竹内さん。彼が、パリにいるアレクシエーヴィチさんを迎える行ってお連れするので、私たちは安心して待つことができました。しかし、市民団体開催ゆえ、予算的・人力的に余裕はなく、スケジュールは超ハード。ゆっくり観光をしていただく間もなく、講演三昧になってしまいました。

さて、講演会は7カ所とも大成功。どの会場も満員もしくはそれに近い来場者となりました。名古屋講演会では、来日以来すっかり「お気に入り」となった緑茶を急須に入れて壇上に置かれ、時々ご自分で注がれながらの講演でした。ベラルーシの被災者の過酷な状況と、永遠に続くであろう悲劇を、ジャーナリストとして、また事故の当事者という立場で語ってくれました。

アレクシエーヴィチさんの知名度は、日本では決して高くはなく、アンケート結果を見ても、彼女のことそして彼女の著書を知らない人が、大半だったようです。しかし彼女は、「チェルノブイリ」への関心から足を運んでくださった方たちに、本当のチェルノブイリの恐ろしさと、そしてそれを乗り越えるために必要なものを教えてくれました。それは「自由な心」と「闘う勇気」です。その言葉を聞いたときに、チェルノブイリは過去や遠いヨーロッパの出来事ではなく、私たちの問題なのだと改めて思いました。人類の未来を予告する衝撃的な事件「チェルノブイリ」の克服は、世界中にとって大きな幸福をもたらすことに気づいたのでした。講演後、舞台の袖に降りてきたアレクシエーヴィチさんの笑顔が、とても優しく印象的でした。絶望していない、未来を信じている目でした。

最後に、多くの方に聴いていただけたことを、とても嬉しく思います。ありがとうございました。（市原佳代）



〈すべての講演を終え、観光を楽しむアレクシエーヴィチさん(隅田川遊覧船にて)〉

アンケートに
寄せられた
参加者の声

ただ一度の原発事故で、どれだけの人が地ごとを味わったのかと思うと、まず、「かわいそうだ」と思う。今まで「人」だったのが、おせん地域にいれば、たちまち「物」となるなんて、おかしいと思うけれど、私もその立場にいれば、人を物扱いにしてしまうかもしれない。(中略) きっとひがいのあった地域・人に関わっている人は、不安だけの日々をおくっている。(もちろん、よろこびもあるだろうけれど…) そんな風に苦しむために生まれてきたわけではないのに！ 結婚式のようなところでも、心から楽しむことができないなんて。今、私はこの場で、かわいそうだと思っている。だけど、何かをするだろうか。「かわいそう」以外にも何か考えるべきだと思った。17年前には、自分たちをとりまいていて世界の変化に対応できていなかった人達も、今は、いろんなかたちで生きぬいている。人はかべにぶつかっても進んでいくのだと分かった。何か協力(その手助け)ができないだろうか。今も誰かが亡くなっていると思うと、自分は幸せだ。どんなに時間が経っても、傷あとが残っている。広島や長崎でもまきちらされた、あの「放射能」によって。もうこんなことはくり返してはいけない。(T・R 13歳)

ウクライナ講座のご案内

2003年度の最終回、12月のウクライナ講座は、「アレクシエーヴィッチさんの講演会(総集編)」です。読書会をした彼女の3冊の本の感想、講演会を通して受け取ったメッセージなどについて話し合います。残念ながら講演を聞く機会を逸してしまった人も、もちろんどうぞご参加ください。

時：12月6日(土)午後1時30分～4時
所：なごやNPOプラザ(地下鉄市役所下車 徒歩3分)

予告

ウクライナ講座・2004

来年度のテーマは「チェルノブイリ救援・ボランティア・セミナー」(仮)です。「ボランティアに関心があるけれども、やったことがない。」「一度やってみたいけど、チャンスがない。」などという人が多いのではないのでしょうか。次のような内容です。楽しみに待っててください。

2月「ウクライナをおいしく知る」
—ウクライナ料理教室

4月「私にできること、自分ならこんなことがしたい」—アイデア募集・キルト製作

6月「汗を流すボランティア」
—バザール・写真展準備作業

8月「ウクライナ・チャリティ・バザール」
—一人ひとりが楽しい自分のショップ

10月「まちなかボランティア」—街頭カンパ・アクション・カード製作教室

12月「ウクライナ・チャイ・パーティ」

ウクライナ訪問 視察報告



〈「障害者協会」との話し合い〉

今回の訪問の目的の1つは、「障害者協会」と「リクヴィダートル」間のトラブル対策と、今後の支援に関する話し合いです。(P6 田中さんの記事を参照)

2つ目に、“チェルノブイリの消防士”から提案のあった「サナトリウム利用事業」の最終段階の話し合いと契約です。この事業を行う民間保養センターには“アントニナ”という俗称があり、4階建て(収容人数は100名ほど)のこぢんまりとしたサナトリウムです。責任者はポチコフスキー医師(38歳・外科医)で、事故直後の現場で医学生ながら医療作業に参加した経験があります。このセンターの治療プログラムは主に理学療法が中心で、他にも“蛭(ヒル)療法”“針治療”などの民間医療を行っています。かつて、行政が交付する保養券は21日分が1クールとされていましたが、地区行政の資金難により18日クールと短縮されました。個人の治療内容により変更されます。私たちが関わることになった「サナトリウム利用事業」の内容は、建物内の数部屋の室内改修によって居住環境を整え“デラックスルーム(特別室)”を作る。そしてその部屋の利用料の15%を寄付として受け取り、事故処理作業者がこのセンターで保養したときの食事を良くするために使うというものです。また建物の老朽化による、最上階の雨漏り

10月30日(木)フランクフルト経由キエフ・ボリスポリ空港に降り立った私と田中さんを、つい2週間前にアレクシエーヴィチ氏と日本縦断講演会を終えて帰国したばかりの竹内さんと、ホステージ基金のドンチェヴァさんが出迎えてくれました。空港では、通関にうんざりするような行列もなく、軍服の人にかわって日本の空港のようにジャケットを着た若い男女が、ネームカードを首から提げて往来していて、とても驚きました。



〈「サナトリウム利用事業」の話し合い〉



〈サナトリウム「アントニナ」外観〉

また建物の老朽化による、最上階の雨漏り

と屋上の修理や、自家給湯・自家暖房などの整備と配管工事を行います。(ボイラー本体は購入済み)。既に、工事材料は自費で準備されていて、今回の事業費で実施する目処がたちました。

3 つ目に、「移住者村診療所基盤整備事業」の現地視察を行いました。私たちは「日本政府の公的資金 (ODA) を利用した大型事業のコーディネーターの役割を行う」ことを現地事業の方針とし、今春ホステージ基金 (キリチャンスキー氏)

の協力を得て、移住者村診療所の医療機器整備に関するアンケートを実施しました。そしてキリチャンスキー氏は、在ウクライナ日本大使館を通じ、外務省“草の根”支援事業に



〈モロゾフカ村診療所〉

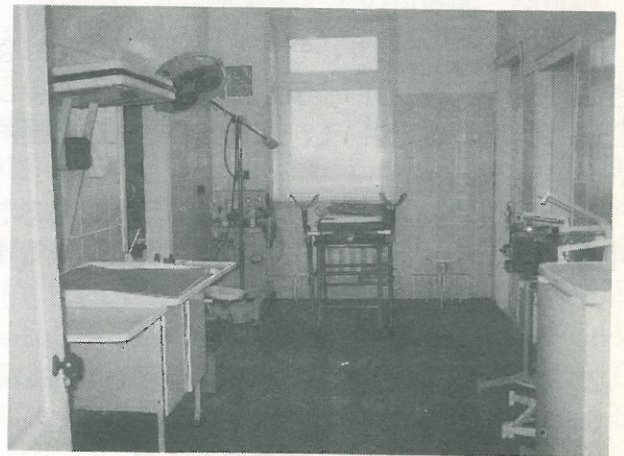
対して、「27 箇所の診療所の医療機器整備事業」という申請を行いました。10 月下旬、すべての診療所へ大使館職員を案内するために、4 日間で 27 カ所 2,800km を移動したとのことでした。現在、申請書は審査中だということですが、彼らの努力が実り、必ず交付されると確信しています。

27 ヶ所の診療所のうち、私たちが今回訪問したのは、ブルシロフ地区にある「モロゾフカ村医師駐在診療所」です。内科医師・助産婦・准医師・看護師・歯科医師・看護員各 1 名が常駐し、1 週間の平均受診者数は 150 名 (25 名/日) という、さほど患者数の多くない診療所ですが、医療機器は心電計・石英ランプ照射器・極超高周波治療装置がそれぞれ 1 台ずつありました。そして、常備薬品棚や医師の往診靴には薬品が納められ、かつてのバラノフ



〈診療所の往診靴の中味〉

カ地区のゼレムリャ村診療所と比較すると、設備の揃った診療所でした。7 年半前に初めて「ゼレムリャ診療所」を訪問した時の衝撃的な印象は、今も忘れられません…。ブルシロフ地区病院は、独自に ODA への申請をしたと聞き、詳細を尋ねたところ“眼科の診断治療機器”とのことでした。「大使館の申請プログラムを利用すれば、新たな可能性が開けます。ブルシロフ地区病院のような自助努力を皆さんも続けてください。」とそれぞれの団体代表に紹介しました。(美)



〈ブルシロフ地区病院(分娩室)〉

障害者団体問題について (田中良明)

チェル救は、チェルノブイリ事故の被災が原因で障害者となった人びとに対する「医薬品代の支援」を行ってきました。これらの人びとが、チェルノブイリ事故のもっとも直接的な被害者だからです。具体的には、G.タビノヴァさんを代表者とする「チェルノブイリ障害者協会」(以下、「障害者協会」という)に支援を行ってきました。

ところが不幸なことに、今年2月に「障害者協会」の臨時大会が開かれて、タビノヴァさんが解任されるという事件が発生しました(この事情については、本誌74号の山盛報告で少し触れられています)。その後、タビノヴァさんたちは、新しい認可団体「リクヴィダートル」を結成し、「障害者協会」は完全に分裂してしまっただけです。

私たちは、『両団体の争いには介入せず、チェル救の支援対象としてふさわしい団体に対して支援を行う』という基本方針を立て、しばらく成り行きを見守っていました。しかし、いつまでも方針を決定しないわけにはいきませんので、7月に【「リクヴィダートル」には支援を行う。新執行部のもとにある「障害者協会」に対しては、支援するかどうかの決定を留保する。】と決めました。新執行部の昨年度分支援金の使い方について、疑念があったからです。

ところで、この決定が現地に伝えられると、「障害者協会」の一部のメンバーが、チェル救の現地パートナーである「ホステージ基金(旧移住基金)」に、繰り返し押しかけるなどの不穏当な行動を取り、「ホステージ基金」の業務に支障を来たすという事態が発生しました。

このような経緯を踏まえ、今回の訪問では「リクヴィダートル」「障害者協会」「ホステージ基金」と話し合っ、事態の把握とチェル救の方針決定のための材料を得ることに努めました。その結果に基づいて、帰国後の運営委員会で次のような確認を行いました。

- 1) 「リクヴィダートル」は、チェル救の支援金に頼るだけではなく、自主的な活動にも取り組んでおり、支援対象として問題はない。
- 2) 「障害者協会」は、(チェル救が疑念を示して変更を求めた後の)支援金の使い方はきちんとしていたが、一部の不穏当な行動についての自己批判や謝罪はなく、自主的活動も低調であることが分かった。チェル救の支援対象になるためには、これらの問題が解決・克服されなければならない、さらに観察を続ける。
- 3) 不当な攻撃を避けるため、「ホステージ基金」がこの問題から一歩身を引くことを了解する。

私たちにとって必ずしも満足のいく結論ではないし、これで問題が解決したわけでもありません。しかし、こういう事態になった以上、少しずつ前進していくしかないと考えています。このような事情について、支援者の皆様のご理解をお願いいたします。

なお、支援を受けるにふさわしい団体であるための条件として私たちが考えているのは、次の4点です。

1. 組織の体質に問題はないか
 2. チェル救の支援方針がよく理解されているか
 3. 自己努力が十分に行われているか
 4. 業務遂行の能力と体勢があるか
- 以上

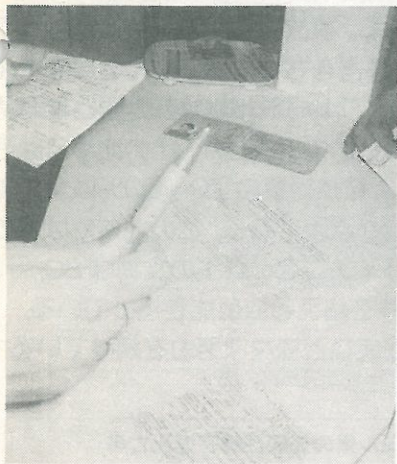


＜「リクヴィダートル」代表タビノヴァさんと＞

「チェルノブイリ母子支援基金・通販生活」のカンパが、形となって!!

…ナロジチ地区病院・ブルシロフ地区病院に、医薬品を届けてきました…

ナロジチ地区病院は、訪問する度に病院内の整備が進んでいます。前回工事中だったレントゲン室は完成し、今回は手術室と回復室の工事が始まっていました。ブルシロフ地区病院では、新築工事は一時中断しているものの、既に完成した小児病棟・産科病棟の設備が充実し、在ウクライナ日本大使館へ新たに「眼科診断治療機器の申請」をしたとのことでした。また、今回の視察では、**作業者協会**の会員が、実際に薬局で薬を受け取る様子を見学することができました。同団体では、医師とホステージ基金・薬局との協力により、医薬品の受取りまでに数回のチェックを実行しています。(以下がその手順です。)



①「障害者手帳」と医師と作業者協会代表のサインのある「処方箋」を提出する。



②薬剤師は、処方箋に書かれた薬品名と価格を帳簿に記入する。



③薬剤を受け取り、帳簿に受取りのサインをする。

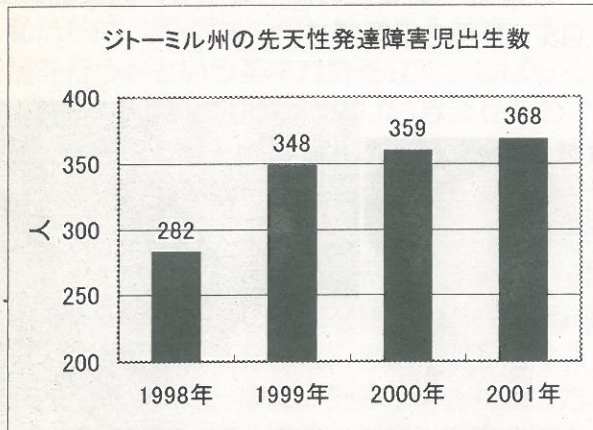
ウクライナへ船便出港

11月20日、今年もまた、メンテナンスの完了した即戦力の中古機器等を積んだ船便が、名古屋港を出港しました。血液成分分離器・麻酔器・人工呼吸器とその付属品・内視鏡・パルスオキシメータケーブル付き等(新品価格で約3,100万円相当)が積まれています。これらは主に「医療機器が不足している。使用可能な中古医療機器なら欲しい。」という市立小児病院に贈られます。ただ、今回10月派遣の代表団は、ブルシロフ病院やナロジチ病院からも、「中古医療機器を受け入れたい」との意向を聞いてきましたので、今後はこれらの地区病院にも贈られることになるでしょう。また、今年2月の代表団・専門家派遣時に、臨床工学技士の北野さんが、現地の臨床工学技士養成プログラムの一環として、「ジトミル技術工科大学での講義・継続的な講座開設、実習用リサイクル医療機器提供及び取り扱い説明を行ないたい。」という意向を伝え、大学は受入可能ということでしたので、今回の荷物の中には、病院に贈る機器とは別に、工科大実習用医療機器も含まれています。その他に、注射器3,700本・車椅子2台も積みこまれました。全部で16箱(909kg)の救援物資は、およそ50日後にウクライナに到着する予定です。

長い間保管してくださった知多の榎本さん、ありがとうございました。

(山盛)

放射能がある限りその影響はなくなる。土壌中の放射能は食べ物や飲み水を通じて体内に取り込まれ、あるいは空気中の土壌粉塵とともに肺の中に入って、体の中から放射線を出し続ける。後から汚染の無い食物や水、空気を与えればセシウム 137 などの体内放射能はいずれ排出されるが、プルトニウムやウランなどアルファ放射能は何時までも体内から排出されない。また成長の盛んな細胞の多い赤ちゃんほど放射能により遺伝子は傷つきやすく、体内保持期間も長いことが知られている。その結果は明らかである。

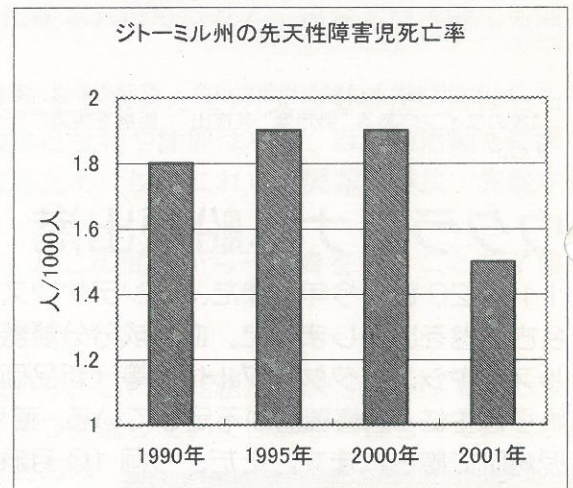


左の図は、私達が支援対象としているウクライナ国ジトーミル州における先天異常児の出生数の推移である。事故から 17 年過ぎたというのに、先天性障害をもった赤ちゃんの数は増えつづけている。ジトーミル州は長野県と岐阜県を合わせたくらいの広さだが、その北半分は汚染地域である。被曝線量の 70~80% は食べ物からの放射能が原因である。この地域では未だにキノコや野イチゴなど野生の食物は 80~100% が基準を超える放射能を持っている。人々は土壌改良など様々な努力を続けている

が、それでも野菜の放射能は完全には無くならない。野草や牧草、残飯を食べる豚やニワトリ、牛などの家畜の肉もまた汚染されている。それを食べる人間に放射能は入り込む。こうして、土壌の放射能がなくなる限り、被曝は続くのである。こうした事情はチェルノブイリだけではない。湾岸戦争と現在なを続けているイラク戦争、アフガンなどで使われた劣化ウランによる被曝もまた同じである。被曝は白血病やガンだけでなく、母体内の退治にまで影響を及ぼすのである。被曝と医療との戦いはまだまだ続く。

しかし、悲観的な材料ばかりではない。右のグラフは、ジトーミル州における先天性発達障害児の死亡率の推移である。ジトーミル州における医療の充実の成果が現れつつある。事実、我々が支援しているジトーミル州立小児病院では明らかに先天性発達障害児の治療成績が向上し、死亡率が減少している。私は、2001 年のスタディーツアーの際、同病院でお腹から肝臓を露出している赤ちゃんを見て息を呑んだが、後に聞けば、この赤ちゃんは手術が成功し無事に退院したという。今、ジトーミルでは汚染地域からの移住者が多数住んでいる村々の診療所の医療施設の基盤強化を目指したプロジェクトが我々のアドバイスのもと、現地団体の手で進行中である。こうした着実な援助が実を結ぶ日が早く来るといいのだが。

(河田昌東)



今年のインターンは私たちです!!

成田幸治です。現在 30 歳、アルバイトをしながら名古屋 NGO センターの企画「NGO スタッフになりたい人の為の研修プログラム」に参加する事になり、チェル救へは9月末からインターンとしてお世話になっています。僕は最初の大仕事として、『クリスマスカードキャンペーン』を担当することになりました。



〈向かって左側が成田さん〉

すでに、事務所近くの山里学童クラブで、子ども達への説明会を終えました。これからも、ずっと関心を持ってもらえたらなと思っています。

僕個人の話をする、今までいろいろアルバイトやら仕事やらを経験し、今に至っています。チェルノブイリでの原発事故に関しては、中学生の時以来で、ほとんど何の知識もありませんでした。「子ども達にも分かるように説明出来なければ…」と勉強して、少しずつ理解してきました。今後のチェル救の活動につなげられるよう、頑張ります。

初めまして、伊佐次 歩と申します。私は、成田さんと同様、NGO センターの研修に参加し、チェル救では10月から4ヶ月間、インターンとして活動させてもらうことになっています。もうすぐ、2ヶ月経つのですが あっという間です……。

チェルノブイリ原発事故については、ここに来て初めて知ったことや驚いたことがたくさんありました。だから、少しでも多くの人に、チェルノブイリの現状や悲惨さを知ってもらいたいと思って、街頭募金を考え『ミルクキャンペーン』を担当することになりました。最初にチラシを作りましたが、パソコンもほとんど使った事がな



かったのが、長時間画面を見続けて作成する作業は、とても大変でした。でも、出来あがると嬉しくて、とても愛しく、多くの人に見てもらいたいなんて思ったりして…(自画自賛)。それで、地域の人たちにチェル救の事を知ってもらおうと、地元を中心にチラシを置かせてくれる所も探しています。なかなか大変ですね。

私の活動が、形には残らないかもしれませんが、少しでも力になれるように、また自分の経験の為にも、精一杯充実した時間にしたいです。

竹内さんのウクライナ便り

最近、イラクに駐屯中のウクライナ軍の通訳(軍職員)が自殺するという事件があり、TV ニュースでも報道がありました。彼はその直前にも同僚(?)の兵士と会話しており、なんら異常は認められなかった、ということですが、自らの意思による自殺であるという短い遺書を残し、ピストルで頭を撃ったのだそうです。バグダッドからは東南の、比較的平穏な地域で「平和維持活動」を行っているウクライナ軍では、私の知る限りこれまで誤射による死者1名と銃の暴発による死者1名が出ており、占領の不条理さを絵に描いて見せているような状態。上記の通訳は、両親にもイラク行きを知らせないまま出発、その後手紙は書いていたそうですが、TV の画面に登場した両親や隣人も、自殺の原因など思い当たらないと繰り返すばかり。キエフ市内の東洋語ギムナジウムというのに付属してできた東洋語・法律大学というのがあり、そこで私の若い友人である日本人の G 君が日本語を教えています。1,650 名のウクライナ軍がイラクに派遣されるのに先立ち、10 人ほどだったかの民間人アラブ語通訳の募集があり、この大学のアラブ語科の優秀な女子学生が応募し採用されて、今は半年の契約でイラクにいるのだということです。その報酬は忘れましたが(私は数字に関してはすぐ忘れる、というよりメモしない限り覚えられないので)、ウクライナ国民の平均収入をはるかに上回るものであったことは確かです。イラクでの戦争に対し、ウクライナの世論は概して否定的でしたが、この「平和維持軍」派遣については特に抵抗がなかった、というのは、ウクライナ独立以



来すでに延べ2万人のウクライナ軍人が国連平和維持軍に参加しており、また現在でもイラクを含めて2,858人が世界の10箇所で平和維持活動を行っている、という既成事実があつてのことでしょう。ヨーロッパやイスラエルなどでの売春、日本での「夜の仕事」で外貨を稼ぐウクライナ人女性たち同様の出稼ぎ行為と見てはあまりにシニカルでしょうか。もっとも数からすれば、出稼ぎ女性たちの人数は在外軍人たちのそれをはるかにしのいでいるはず。最近、G君に日本大使館から通訳のバイトの紹介があり、特殊レンガをウクライナの工場で造らせようという68歳の意気軒昂な日本人事業家と仕事をしたそうですが、滞在の最終日、事業家氏は東京のバー(?)で知り合ったウクライナ人女性に会うと言い、来た女性を見ると、なんとG君の教え子だったそうで、事業家氏は女性の娘さん(2~3歳)におもちゃを買ってやろうと一緒に出掛けていった、という話でした。このような女性たちを日本に派遣する事務所が、キエフだけでもすでに6箇所はある、というのが数年前の情報でしたから、今はもっと多くなっていることでしょう。在キエフの日本人でそういう商売をやっている人物もおり、彼の事務所では、日本への派遣前に短期の日本語会話講座を行っている由。

(11月22日)

NPO法人チェルノブイリ救援・中部の2003年度上半期収支報告書

(2003・4・1～2003・9・30)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---------------|------------|-----------------------|------------|
| 項目 | 金額(円) | 項目 | 金額(円) |
| 救援寄付金 | 2,064,485 | 事業費 | 7,047,210 |
| (内訳) 個人(252件) | 2,011,848 | (内訳) 医療関係支援事業(医療機器提供) | 400,000 |
| 団体(8件) | 52,637 | 医療関係支援事業(医薬品提供) | 1,200,000 |
| 運営費関連寄付金 | 235,280 | 保健事業費 | 1,350,000 |
| (内訳) 個人(41件) | 235,280 | 被災者団体等支援事業費 | 550,000 |
| 団体(0件) | 0 | 特別事業費 | 119,950 |
| 国際ボランティア貯金交付金 | 0 | 奨学金事業費 | 1,400,000 |
| 外務省ODA補助金 | 2,862,660 | 現地派遣事業費 | 0 |
| 民間助成金 | 2,100,000 | 海外監査費 | 58,588 |
| 物品売上等 | 60,900 | 業務委託費 | 500,000 |
| 預金利子等 | 40,249 | 駐在員費 | 242,600 |
| 立替金未清算差額 | 0 | 輸送費 | 4,580 |
| 為替差益 | 0 | 文通・クリスマスカード事業費 | 0 |
| | | 国内事業費(機関紙発行等) | 1,221,492 |
| | | 管理費 | 1,617,816 |
| | | (内訳) 役員報酬 | 330,000 |
| | | 人件費 | 380,633 |
| | | 通信費 | 242,422 |
| | | 印刷製本費 | 43,404 |
| | | 旅費交通費 | 182,824 |
| | | 会議費 | 7,371 |
| | | 消耗什器備品費 | 0 |
| | | 消耗品費 | 37,689 |
| | | 機器賃借料 | 0 |
| | | 修繕費 | 19,215 |
| | | 事務所費 | 281,416 |
| | | 支払手数料 | 39,635 |
| | | 広告宣伝費 | 19,837 |
| | | 諸謝金 | 3,370 |
| | | 団体会費 | 30,000 |
| | | 租税公課 | 0 |
| | | 雑費 | 0 |
| | | 当期支払い合計 | 8,665,026 |
| 当期収入合計 | 7,363,574 | 当期収支差額 | △1,301,452 |
| 前期繰越 | 14,699,874 | 次期繰越収支差額 | 13,398,422 |
| 収入総額 | 22,063,448 | 支出総額 | 22,063,448 |

上記期間の収支報告書を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2003年11月8日 監査人 南 和也 (南)

この度、家庭の事情により会計を辞めさせて頂くことになりましたが、8ヶ月間大変お世話になりました。会計の仕事は初めての経験だったので、事務所の皆さん、田中さん他、皆さんには本当にご迷惑をおかけしまして、頼りない会計担当者であったことと思いますが、初めてこういった非営利団体に関わる事ができた事に感謝しております。やはり、普通の企業と比べると、事務所も特異なカラーを持っており、最初はびっくりしましたが、それも今となっては愛着をも感じるようになりました。あの、水を出すと激しい音がする水道や、マッチで火をつけるコンロなど…。いつまでも覚えています！皆さん、本当にありがとうございました。(鈴木美登里)

事務局だより 時間の経つのが早くて、10月のアレクシェーヴィチさんの講演会
はもう随分前のことのように思える。残すところ1ヶ月の今、チェル救事務所は、若い熱気
に満ちている。2人の研修生、そして、家庭の事情で辞めなければならなくなった前会計の
鈴木さんに代わって、ボランティア経験豊かな青年—石川さんが会計として加わり、事務所
全体が弾んでいるようだ。背中で聞く彼らの会話は、時々弾み過ぎて、「遊び？」と思う時
もあるが、沈んでいるよりはいいに決まっている。研修生は「カードキャンペーン・ミルクキ
ャンペーン」の企画・実行を担当し、屈託のない熱心なディスカッションを重ねながら、そ
れぞれのペースで着々と進めている。また、石川さんは去年のNGO研修生で、彼らにいろ
いろアドバイスをしてくれるに違いない。一般論だが、長い年月同じところで活動している
と、澁（枘）も溜まり、考え方が硬直化し、時には傲慢になる。自分もそうならないか
と問いながら、若い人達の話の聞いていると、彼らに学ぶところは大きい。最近、私達のカ
ウンターパートであるホステージ基金にもかなりの疲れが垣間見え、私達との相互理解に影
を落とす事がある。理由はいろいろあるだろうし、問題点は克服していかなければならな
いが、ふと、案外「外から吹く新鮮な風」のようなものによって、「変わらない」彼らの組織に
健康な率直さが戻ってくるのかもしれないと思う。彼らにも、元気のいい若い新鮮な「風」
が吹かないものだろうか？（山盛）

**X'masカードを送ろう！
クリスマスカードをウクライナの
子ども達に送ります。**

12月15日〈月〉事務所へ必着
詳細は、同封のチラシを
ご覧ください。（成田）

街頭募金 手伝って！

12月14日(日)11:00から、ミルクキャン
ペーンの一環として、榮の三越前で街頭募金をやり
ます。せっかくチェル救に関わったので、何か微力
ながらウクライナやチェル救の力になりたい、そし
て多くの人に知ってもらいたいです。その為、当
日街頭に立ってくれる人を募集します。今のところ
協力者がほとんどいないので、時間のある方、是
非一緒をお願いします。（伊佐次）

編集後記

- ☆昨夜のニュースによると、日本の東京が爆撃されるらしい…ホントかな？ 明日は我が身
か…誰のせい？ 痛い目に遭わないと「一抜けた！」って言えないのかも？ （美）
- ☆最近涙もろい。テレビを見て涙、新聞を読んでも涙。知り合いのお医者さんにそう言っ
たら、「自分の生活に感動がないからです。」と言われた。うう、あたっている。（佳）
- ☆「自爆テロ」があとを絶たない。米・英は、「断固としてテロと戦う」と息巻く。「自爆テ
ロ」側が声明を出す。「米・英のイラク侵略（テロ）は許せない」…と。闘いが、泥沼化し
て喜ぶのは、米・英の軍需産業だけ。…そうか、これが答えだったんだ。（J）
- ☆（京）さんは、卒論の締め切りに追われて、今回の編集はお休みです。あしからず。

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷「エープリント」
TEL・FAX (052) 871-9473